

◎特集 1 / 学力向上対策事業について

◎特集 2 / 平成23年度スーパー専門高校モデル事業研究成果報告

- スーパーサイエンスハイスクールの取組について
- 「世界一」への挑戦 WROロボットコンテスト全国大会優勝
- 平成26年度全国高等学校総合体育大会 ～大会愛称等が決まりました～
- 県立美術館特別展「浅川伯教・巧兄弟の心と眼—朝鮮時代の美」
- 県立博物館企画展「おふどうと名乗った家—豪商大木家の350年—」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク／武田の杜鳥獣センター、信玄公宝物館
- らくがき 県立日川高等学校 土屋 芳子 教諭
県立富士見支援学校旭分校 平賀 希和子 教諭
- 「富士山信仰遺跡調査の成果報告&講演会」の開催
- 学校紹介／韮崎市立韮崎西中学校、県立上野原高等学校
- 総合教育センター情報／学校教育を支援する実践的調査・研究を目指して
- 県立図書館／「レファレンスの道具箱 山梨県の神社について調べる」
- 山梨の文化財／甲府城跡出土遺物
- 主な行事予定



「学力向上対策事業」について

■平成23年度学力向上対策事業の概要

県では、平成23年度から「学力向上対策事業」を開始しました。

これは、新しい学習指導要領の全面実施にあたって、県下の小・中学校の児童生徒に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、本県児童生徒の確かな学力の定着・向上を図ることをねらいとしたものです。

山梨の子どもたちの学力は、「全国学力・学習状況調査」の結果から、全国と同様に知識を活用する力に課題があることが明らかになっています。また、平成22年度の調査では、中学校国語以外は、全国平均を下回り、特に小学校については、緊急に改善に取り組まなければならない状況が明らかになっています。

本事業は、次の三つの細事業によって構成されています。

- ①学力向上アドバイザー事業
 - ②学力向上パイロットスクール事業
 - ③学力把握調査事業
- 県内小・中学生の学力向上を目指し、これらの細事業を関連させて進めています。

■学力向上推進協議会の設置

(学力向上アドバイザー事業)

(1) 概要

学力向上アドバイザー事業では、山梨県の公立

小・中学校における学力に関する取組の中心的存在として、「学力向上推進協議会」を設置しています。

この会は、大学教授や市町村教育委員会の代表、PTAの代表、研究指定校の校長等で構成されており、学力向上対策事業全体を統括し、事業の在り方や事業内容や運営方法を検討したり、県下全公立小・中学校で行っている学力向上推進の方法、内容について提言を行ったりすることを目的としています。

また、本協議会の下に、授業改善プラン作成委員会、学力向上プログラム作成委員会等の委員会を置き、小・中学校の学力向上推進に必要な資料の作成、配布等も行っています。

(2) 内容

○授業改善プランの作成、配信

現場の先生方が授業を改善する際に参考となるよう、次の学力調査等の結果を踏まえた「授業改善プラン」を作成し、配信しています。

- ・ 全国学力・学習状況調査(国)
- 対象：小六、中三(国、算・数)
- ・ 教育課程実施状況調査(県)
- 対象：小六、中三(理、社、英)
- ・ つまずき診断検査(県)
- 対象：小三、小五、中二(国、算・数、英)

○学力向上プログラムの作成、配信

これまでに学力向上に取り組んでいた、研究指定校の研究成果を踏まえ、学力向上に効果があると考えられる取組を、「学力向上プログラム」として作成し、総合教育センターHPで

公開しました。プログラムは、「学習規律の確立」や「補充学習の実施」等、全13項目、合計45種類の取組で構成されています。県下の全小・中学校ではこれらを参考に、自校の実態に応じて取り組むことになっています。

○一人一実践、一校一実践の推進

県下の公立小・中学校では、各教員が授業改善の課題と目標を設定し、授業の改善を図る「一人一実践」と、学校全体で生活面も含めた学力向上の取組を実施する「一校一実践」に取り組んでいます。

平成22年度の取組では、全ての小・中学校で、複数の新たな取組が実施され、様々な成果をあげました。

しかし、「個人差への対応」「交流や発表活動の充実」「家庭との連携」等の課題もあり、これらは、平成23年度の取組で改善を目指しています。

○家庭・地域向けの啓発活動(学力向上の集い)の企画、実施

新学習指導要領で求められている学力や、家庭における育成方法について保護者及び学校関係者がともに学ぶ機会とするため、学習心理学等を専門とされる大学教授から、各学校で行われている取組内容や、保護者に対して助言をいただく会を計画しています。

県下5地区で次のような日程で実施を予定しています。

- ・ 峡南地区：平成23年11月29日（火）
- ・ 甲府地区：平成23年12月13日（火）
- ・ 中北地区：平成24年1月24日（火）
- ・ 峡東地区：平成24年2月7日（火）
- ・ 富士・東部地区：平成24年2月9日（木）

○各市町村（組合）教育委員会との連携

（学力向上担当者会議の実施）

学力向上への取組を充実させるため、公立小・中学校の設置者である市町村（組合）教育委員会との担当者間で情報交換等を行います。

■学力向上パイロットスクールの指定

（学力向上パイロットスクール事業）

（1）概要

県内5地区において、次の小・中学校計10校を、研究指定校（パイロットスクール）として指定し、各地区の拠点校として位置づけました。

- ・ 中北地区：中央市立三村小学校
北杜市立須玉中学校
- ・ 峡東地区：山梨市立日川小学校
笛吹市立石和中学校
- ・ 峡南地区：市川三郷町立六郷小学校
身延町立中富中学校
- ・ 富士・東部地区：大月市立鳥沢小学校
富士吉田市立明見中学校
- ・ 甲府地区：甲府市立伊勢小学校
甲府市立上条中学校

これらの学校では、各教科等において言語活動や理数教育等の充実を柱に、確かな学力を身に付けさせるための指導法や評価方法について実践的な研究を行い、その成果を地域を通して



六郷小での事例研究会

県下に広めることを目指しています。また、指定地区ごとに教員の授業力を高めるため、計10回の授業力養成講座も開催しています。

（2）内容

○授業研究会・事例研究会の開催

指定校では、学力向上を目指し、授業の改善に取り組む「授業研究会」と授業外の取組充実を目指す「事例研究会」を実施しています。いずれの研究会にも地域の他の小・中学校の教員が参加し、地域内で共同で学力向上に取り組む仕組みになっています。

○授業力養成講座の開催

指定校を会場として、教員の授業力を高めることを目指した講座を開催しています。講師には、文部科学省の専門官やその教科等で先導的な実力をおもちの方を招いています。

■つまずき診断検査の実施

（学力把握調査事業）

（1）概要

県内の公立小・中学校の児童生徒が、学習指導要領に示されている目標や内容をどの程度身

に付けているか、より早い段階から学習のつまずきを把握して、指導の改善に生かすことを目指しています。

（2）検査の実施

- ・ 期日：10月初旬（平成24年度以降は5月に実施を予定）
- ・ 学年：小三、小五、中二
- ・ 教科：国語、算数（小学校）
国語、数学、英語（中学校）

（3）結果の集計、分析、活用

県教委では、県下小・中学校の児童生徒から1割（各学年900名程度）を抽出した後、採点、集計、分析して、県全体としての課題を把握します。

集計の結果と把握した課題については、各学校が自校の児童生徒の学力の状況を分析し、改善策を検討するときに役立つよう、改善を図るための取組例（授業改善プラン）を作成し、公開します。また、検査に参加した学校で、検査結果を踏まえ、効果的な指導ができるよう、検査結果を集計し、結果を印刷できるソフトの配信も行います。

各小・中学校では、各校の状況に応じてこれらの事業を活用することで、学力向上に対する「計画―実施―点検―改善」という仕組みを確立することを目指しています。

また、県教育委員会では、これらの事業によって、市町村（組合）教育委員会と協力しながら、県全体の学力向上を図り、個々の児童生徒の可能性を伸ばすとともに、地域を支え、世界に通じる人を育てることを目指しています。

特集2

平成二十三年度スーパー専門高校モデル事業（「目指せスペシャリスト」）研究成果報告

— 県立峡南高等学校 —

【スーパー専門高校モデル事業の概要】

平成二十一年度文部科学省から研究指定された「目指せスペシャリスト事業」は、昨年度から県の事業「スーパー専門高校モデル事業」へと引き継がれ、本年度まで研究を継続してきました。研究テーマ『和紙を活かした商品開発と次世代の身延町を担う人材の育成』は西嶋和紙を中心とした伝統的産業の再発見とそれを現代に活かす商品開発』について、三年間の研究成果を、紹介します。



〔和紙の紙漉体験〕



〔点描画の作製〕

【平成二十一年度（二年目）の取組】

建築インテリア科インテリアコース（略称・A I科Iコース）と情報ビジネス科（略称・B科）の生徒が中心となり、体験学習や職場見学など、地域と連携・協力をしながら、西嶋和紙等の地域

産業への理解を深めました。特に、「身延町なかとみ和紙の里」での紙漉・色付け体験や、「富士川クラフトパーク」でのガラス工芸・陶芸など、通常校内では学習できない貴重な体験ができました。また、教育課程の検討により、平成二十二年からの学校設定科目の導入と教材テキストの開発が進められ、既存授業では、点描画の作製なども行われました。

【平成二十二年年度（二年目）の取組】

年度前半、Iコースでは、前年度に生徒が作製した点描画作品をもとに、ブックカバーを作製し、B科生徒が県内書店二店舗での店頭配布と西嶋和紙に関する調査を実施しました。夏休み中には、B科生徒は「和紙の里」で団扇を作製し、地元ホテルでの団扇の配布と西嶋和紙のPR活動を行



〔B科・ブックカバー配付と団扇配布〕



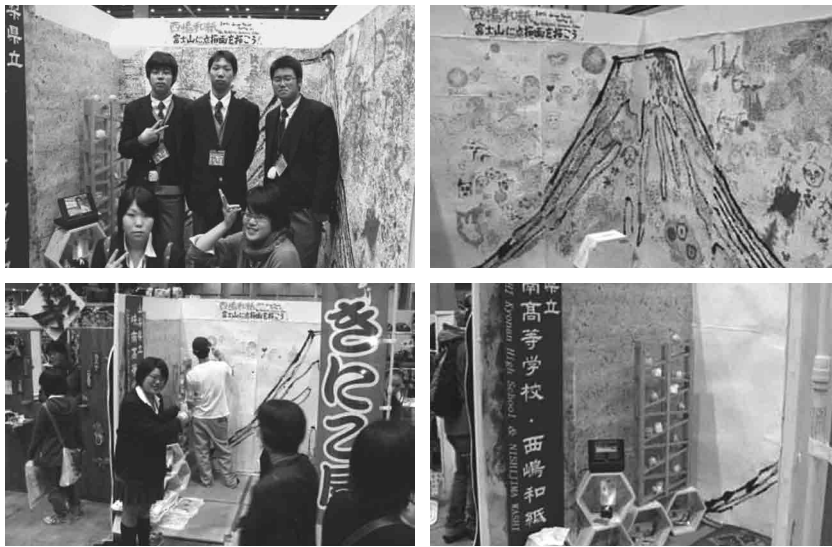
〔Iコース親子木工教室（上）、B科・関東大会出場（下）〕



〔Iコース・オリジナル和紙の製作〕

い、Iコース生徒は校内実習室で木材加工した材料を使い、「ぴゅあ峡南」で「親子木工教室」を行いました。

年度後半には、B科生徒が、県商業研究発表会や峡南地区教育フォーラムなどで、また県代表として関東商業研究発表会でも、これまでの研究成果を発表しました。一方、Iコースでは、校内実習室での和紙づくりの研究を進め、葡萄の皮などが入ったオリジナルの和紙や、和紙とLEDランプを組み合わせた試作品も開発しました。



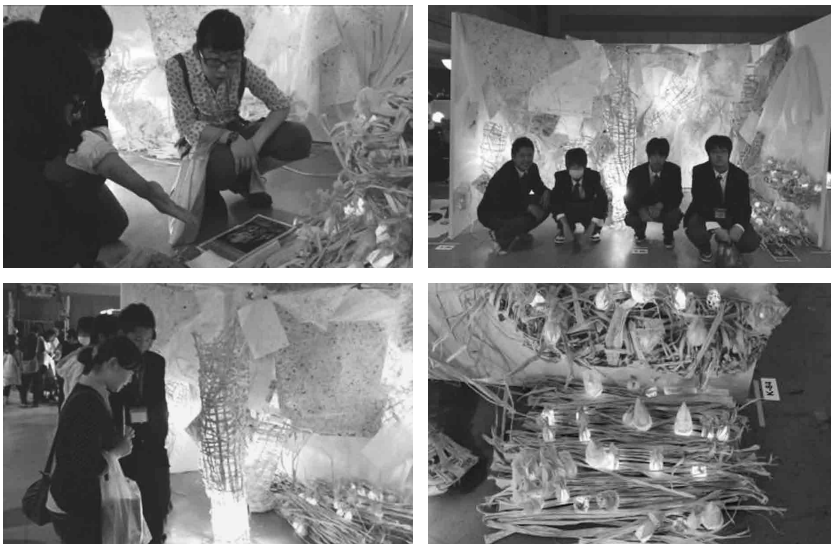
【東京ビッグサイト・デザインフェスタ初出展】

また、十一月には、東京ビッグサイトで開催されたデザインフェスタに初出展し、西嶋和紙のPR活動やアンケートを実施しました。書店やホテ

ルでのPR活動やデザインフェスタへの出展を通して、マスクミ等からも多くの取材を受けました。

【平成二十三年度（三年目）の取組】

Iコースでは、昨年度和紙とLEDランプを組み合わせた試作品から「和紙輝（わしあかり）」数種類と、オリジナル和紙数種類を開発し、オリジナル商品が完成しました。五月には、デザインフェスタに二回目の出展をすることとなり、展示ブースにはオブジェも製作して、オリジナル商品を販売実践しました。昨年同様、県商業研究発表会で



【デザインフェスタに二回目の出展】

の実践報告や、「親子木工教室」を実施するとともに、本年度初めてインターネット販売も取り扱う商業高校物産展に「和紙輝」やオリジナル和紙を出展しました。また、地域興しの一環として行われた「西嶋和紙まつり」に参加し、販売実践を行いました。販売実践では、「和紙輝」・和紙ともに多数販売することができ、消費者の購買傾向などもリサーチすることができました。



【商業高校物産展出展】



【西嶋和紙まつり参加】

【研究成果と今後の展望】

今回の研究をとおして、工業・商業の枠を越えた連携・協力により、商品開発・販売の実践的な活動を実施できました。また、周辺地域との相互理解を深めながら、本校や地域産業のPR活動を推進することができ、色々なイベントをとおして外部との交流を深めることができました。一方、インターネット販売や他科との協力など今後の検討課題もあり、改善を試みながら、様々な取組をより良いものに発展させていきたいと考えています。

スーパーサイエンスハイスクールの取組について

— 県立甲府南高等学校 —

一 はじめに

甲府南高校は、平成十六年度に文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、将来の国際的な科学技術系人材の育成を目指し、理数教育プログラムの研究開発に取り組んで参りました。

本年は、平成十九年度に指定を受けた第二期SSHの最終年度であり、その研究活動について紹介したいと思います。

二 主な研究活動とその取組

○ 第二期SSHの研究課題と特徴

第二期SSHの研究課題は、『地域の身近な科学事象から、グローバルな科学への視野を開かせるプログラムの開発』と題して、『科学好きから科学者へ』と題して、第一期SSHの研究活動を継続・発展させる内容へと進化させました。豊かな自然に恵まれた山梨の地域性を十分に生かし、地域の自然や科学の事象からグローバルな視野を開かせることを目指しています。

また、第二期SSHの特徴は、全校生徒を対象に取り組んでいることです。理系、文系を問わず、これからの社会で必要となる科学的なものの見方や考え方、プレゼンテーション能力などの育成を目指して、全校生徒がSSH活動の様々なプログラムに参加しています。

○ 学校設定科目

教育課程の開発においては次の四つの学校設定

科目を設けています。

① 「フロンティアガイダンス」：全学年全クラスを対象に、専門分野への興味・関心を高めることを目的として、全教科の教職員がそれぞれの担当する科目の授業において、科学を題材とした授業を行っています。

② 「サイエンスイングリッシュ」：一年生全クラスを対象として、身近な科学をテーマに独自の教材を作り、実践的コミュニケーション能力を育成する授業を行っています。

③ 「SS科目」：理数科と普通科理数クラスを対象とし、理数科目において応用的・発展的な学習や課題研究などを取り入れます。

④ 「スーパーサイエンスI・II」：主に、一、二年生を対象とし、自然科学に対するより実践的な能力を育成するために、生徒の進路志望に応じて選択できる科目で、大学や企業との連携講座、JAXAなどの研究機関との連携講座、ものづくりを中心にしたロボット講座、課題研究など、多くの講座があります。

また、サイエンスフォーラムと称する科学講演会も毎月のように実施しており、これまでに百名を超える科



東北大学 中沢正隆研究室にて

学者・研究者をお呼びしています。

○ 校外研修

お茶の水女子大学の研究施設での臨海実習やスーパーカミオカンデを訪問する神岡研修、昨年度実施した種子島・屋久島研修など泊を伴う校外研修も行っています。さらに、海外研修も実施しており、これまでにアメリカNASAへの訪問やハワイ島での研修を行いました。

○ サイエンスワークショップ

四つの自然科学系の部活動があり、科学好きな生徒達が集まり、課題研究に取組んだり、各種コンテストに参加したり、活動が年々活発になってきています。

三 研究の成果と課題

生徒の理数科目や科学技術への興味関心が高まり、理系を希望する生徒が年々増加しています。また、科学系のコンテスト等で、全国レベルの大会に出場し入賞する生徒も出るなど、取組の成果がみられるようになってきました。今後は、地域との連携強化や成果の普及などに努めていきたいと考えています。



米国研修 ケネディ宇宙センターにて

「世界一」への挑戦

WROロボットコンテスト全国大会優勝

— 県立甲府工業高等学校 —

はじめに

甲府工業高校では、人間教育を最重要点に「ものづくり」「進学対応」「部活動」の三分野で、全国トップレベルの工業高校を目指す「スーパー甲府工業」構想を指導指針に掲げ、教育活動を行っています。特に、電子科では「ものづくり」への取り組みとして、レゴ・マインドストームを使用したロボットコンテストへの参加を、平成十一年度から継続的に行ってきました。この成果として、今年度初めてWROロボットコンテスト全国大会で、念願の優勝を果たすことができました。全国大会での優勝は、県勢としても初の快挙です。

WROとは

WRO (World Robot Olympiad) は自律型ロボットによる教育的な競技会で、シンガポールサイエンスセンターの発案により二〇〇四年に始まりました。世界中の子どもたちが各々ロボットを製作し、プログラムにより自動制御する技術を競うコンテストです。市販ロボットキット(レゴ・マインドストーム)を利用することで参加しやすく、科学技術を身近に体験できる場を提供することにも、国際交流も行われています。「世界に挑む」という高い目標が子どもたちのチャレンジ意欲を大きく高めています。WRO活動の目的は、教育的なロボット競技への挑戦を通じて、子どもたちの創造性と問題解決力を育成することです。

WROの開催イメージ

図1はWRO大会の開催イメージです。日本国内地区予選は小中高校生大会を全て含めると、全国二十二ヶ所、七二〇チームの参加で競われまし

た。本校のチームは八月八日(月)・九日(火)の二日間、神奈川工科大学で行なわれた厚木地区予選会を勝ち抜き、日本決勝大会(全国大会)に駒を進めました。

九月十八日(日)に東京のBumB東京スポーツ文化館(江東区夢の島)で、WRO Japan決勝大会が開催されました。本校が出場したレギュラーカテゴリー高校生部門は、全国の地区予選会出場チーム三七〇チームから勝ち上がった、三十三チームで競われました。今年の競技課題は、赤、緑、青の大小八つのブロックを、指定された場所まで速く正確に移動させるというものでした。ロボットがブロックの色を認識して、正確に運ばなければならない難易度の高い課題です。二回の競技の得点とタイムで競われるのですが、出場全チームのうち二回ともパーフェクトの得点を獲得したのは、本校のチームだけでしたので、完全優勝といえます。(図2)



図1 WRO大会の開催イメージ (提供: WRO Japan 実行委員会 <http://www.wroj.org/>)



図2 WRO Japan 決勝大会 優勝チーム「Magical Circle」

二〇一一年度のレギュラーカテゴリーにおいては、小学生四チーム、中学生四チーム、高校生四チームが日本代表として、二〇一一年十一月十九日(土)・二十日(日)にアラブ首長国連邦(UAE)・アブダビで開催される世界大会に出場します。大会には、世界三十二ヶ国から選抜された二〇〇チームが参加し、熱戦が繰り広げられる予定です。

まとめ

本校がロボットコンテストに参加を始めてから、十三年目で初の全国大会優勝を果たしました。現在は、日本大会優勝チームとして、十一月の世界大会でも優勝を目指して、ロボット製作に取り組んでいます。

WRO大会は、ロボット競技を通じて試行錯誤を繰り返すことで、生徒の問題解決能力、ひいては生きる力が培われるという点においても素晴らしい大会だと思えます。今後も「世界一」を目標に、継続して大会へ参加したいと考えています。

平成26年度全国高等学校総合体育大会が開催されます!!

～大会愛称等が決まりました～

— スポーツ健康課 —

平成26年8月に山梨県を含む南関東4都県（千葉県、東京都、神奈川県）で全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が開催されます。平成22年度の沖縄県での開催を最後に都道府県の輪番が一巡し、平成23年度からブロック別の開催となりました。本年度は北東北（青森県、秋田県、岩手県）ブロックで開催されました。

本県では平成8年以来の開催となり、8競技が行われます。皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。



★最優秀作品

○大会愛称
「煌めく青春 南関東総体2014」
白石 璃生さん 桐ヶ丘高校（東京都）

○スローガン
「君の汗 輝く一滴 勝利の雫」
鈴木 諒介さん 湊中学校（千葉県）

○シンボルマーク
柳本 薫さん
甲府西高校（山梨県）

○総合ポスター図案
池田麻里子さん
小田原城北工業高校
（神奈川県）



★山梨県入選者

○総合ポスター図案
・優秀賞 保坂安耶さん 身延高校
・佳作 菊嶋京子さん 甲府東高校

○スローガン
・優秀賞 齊藤一平さん 甲府南高校
・佳作 鈴木圭佑さん 都留高校

<H26南関東インターハイ掲載ページ>

<http://www.pref.yamanashi.jp/sports/index.html>
（山梨県HP、スポーツ健康課）

1 大会の概要

- (1)開催時期 平成26年8月上・中旬
- (2)実施競技 30競技（山梨県8競技）
- (3)山梨県開催競技

①陸上競技	⑤自転車競技
②卓球	⑥ホッケー
③サッカー	⑦ウエイトリフティング
④ボート	⑧カヌー

2 大会愛称等決定、表彰式

本年度6月から9月にかけて平成26年度全国高等学校総合体育大会「大会愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案」を募集しました。9月に山梨県選考会、10月に東京都で最終選考会を開催し、入選作品が決定しました。応募総数、4,507点の中、山梨県から3部門で5名の作品が入選しました。

シンボルマークの部では、甲府西高校の柳本薫さんの作品が見事に最優秀賞に選ばれました。このシンボルマークは総合ポスターの中に描かれるなど、大会のシンボルとして様々な場面で活用されます。

また、10月31日（月）には最優秀賞、優秀賞入選者の参加のもと、東京都で表彰式が行われました。賞状などを授与された最優秀賞入選者は、喜びのコメントを述べました。

山梨に生まれた朝鮮工芸研究の先駆者、日韓交流の架け橋となった兄弟 特別展「浅川伯教・巧兄弟の心と眼—朝鮮時代の美」 — 県立美術館 —

新しい美の発見

浅川伯教（のりたか 一八八四〜一九六四）と巧（たくみ 一八九一〜一九三二）の兄弟は、山梨県北巨摩郡甲村（現、北杜市高根町）で生まれ、大正期に朝鮮半島へ渡って活動した工芸研究家です。兄・伯教は小学校の教員として、弟・巧は朝鮮総督府山林課の職員として勤務するかわらわら工芸の研究を進め、伯教は朝鮮陶磁研究の第一人者となり、巧も朝鮮の陶磁器と木工品について先駆的な名著を残しました。それまで注目されることになかった「李朝—朝鮮時代（一三九二〜一九一〇）の陶磁器に光をあて、朝鮮陶磁は多くの人々の注目を浴びるようになります。」

朝鮮時代の美の紹介者

兄弟はよき導き手として朝鮮時代の美を紹介し続け、大きな影響を他に与えることになりました。文芸・美術雑誌『白樺』同人である柳宗悦（一八八九〜一九六一）は、二人を通じて朝鮮に対する理解と関心を深め、そこに、同様に浅川兄弟によって朝鮮陶磁の美を知った富本憲吉、河井寛次郎、濱田庄司らが加わり、民藝運動の誕生へと繋がっていきました。

浅川兄弟の業績と生涯を紹介

彼らの人生は追慕され続けており、近年、彼らの活動の先駆性は高く評価されています。本展では、浅川兄弟や柳宗悦が選び抜いた陶磁器、木工品をはじめ、大阪市立東洋陶磁美術館へ寄贈された、未公開の伯教作の絵画や巧の原稿資料など約二〇〇点を通して、近年再評価



青花辰砂蓮花文壺【浅川伯教旧蔵】
朝鮮時代・18世紀後半
大阪市立東洋陶磁美術館蔵

の気運が高まる浅川兄弟の事跡を、はじめて体系的に紹介します。本展が、「朝鮮陶器の神様」と呼ばれた伯教と、「韓国の山と民芸を愛し、韓国人の心のなかに生きた日本人、ここに韓国の土となる」と韓国にある墓碑に刻まれた巧の、心と眼への理解を深めることのできる機会となります。

■関連イベント

◎担当学芸員のギャラリー・トーク
日 時／十二月十日（土）午後二時〜
会 場／特別展示室（申込不要、特別展チケットが必要）
大人のための美術講座

◎大人のための美術講座

ギャラリー・トークの前のちよつとお得なレクチャーです。
日 時／十二月十日（土）午後一時〜一時三十分
会 場／総合実習室（申込不要、聴講無料）

◎記念映画会「ファン・ジニ 映画版」

一六世紀・朝鮮時代に実在した妓生（芸妓）ファン・ジニの数奇な生涯を描いたドラマ。朝鮮時代の社会を知ることができます。

日 時／十二月二十四日（土）午後一時三十分〜
会 場／県立文学館・講堂（申込不要、入場無料、全席自由）

■会 場 県立美術館 TEL 〇五五—二三八—三三三二

■会 期 十一月十九日（土）〜十二月二十五日（日）

■休館日 十一月二十四日・二十八日、十二月五日・十二日・十九日

■観覧料 一般 一〇〇〇円（八四〇円）、大・高生 五〇〇円（四二〇円）、中・小生 二六〇（二二〇）円*（*は二〇名以上の団体、前売、

宿泊者割引料金。小・中・高等・特別支援学校生は土曜日無料。

県内在住の六十五歳以上の方（健康保険証等持参）は無料。障害者手帳をご持参の場合ご本人と介護の方一名が無料

企画展「おふどうと名乗った家 —豪商大木家の350年—」

— 県立博物館 —

時は江戸時代の天保年間（一八三〇〜一八四四）。甲府から江戸に向かう宿屋で、「井筒屋」を名乗る商家の主と修験者が出会いました。どうやら修験僧は宿代に窮している様子。そこで商人は幾ばくかの金子を恵むことにし、僧は代りに不動尊像を差し出しました。不思議なことに、それ以来「井筒屋」では慶事が続きました。商人は不動尊の加護を喜び、屋号を「おふどう」と改めました。

この言い伝えに登場する商人の名は大木喜右衛門。甲府の横近習町（現在の中央二丁目）に居を構える呉服商の五代目でした。大木家の始祖は三河国幡豆郡今川荘を領して今川氏を称した今川国氏の三男・四郎政氏の子政義であるといわれ、南巨摩郡の黒沢村近在（現在の富士川町）に移り住んだ後、寛文年間（一六六一〜一六七二）に大木彦右衛門が甲府で呉服商を始めたとされています。

江戸時代に甲府商人の頂点に立った大木家は、明治・大正時代には銀行の設立や政治活動への参加など、山梨の産業・経済界のリーダーとしても活躍しました。また、歴代の当主は豊かな財力を基盤に甲府の庶民層の文化を牽引し、特に七代喬命は私学の振興や芸術家の育成に励むなど、地域に根を下ろした文化振興活動を行なってきました。

甲府の街と共に生きた大木家の遺産は、平成三年に山梨県に寄贈されています。そのうち美術工芸資料の一部は、すでに平成四年に県立美術館で公開されましたが、今回はさらに歴史・民俗の資料も加えて展示される初めての機会となります。全分野を総合的にご覧いただくことで、甲府きつての豪商の暮らしと文化が、より鮮やかに浮かび上がることでしょう。展示では、「おふどう呉服店」の経営や家族の生活にまつわる資料だけでなく、歌川広重による五代大木喜右衛門夫妻の肖像画、江戸千家初代川上太白作の茶入れ、明治時代の最高級品として名高い京都の人形師大木平蔵作の五月節供人形など見どころが満載です。三五〇年の時が凝縮されたタイムカプセルを、ぜひ皆様の目でご覧ください。

○主 催 山梨県立博物館

○開催期間 平成二十四年一月二十七日（金）〜三月五日（月）

○場 所 山梨県立博物館（笛吹市御坂町成田一五〇一―二）

○観覧料 常設展の観覧料でご覧いただけます。

一般／五〇〇円（四〇〇円）、高校・大学生／二二〇円
（一六〇円）、小・中学生／一〇〇円（八〇円）

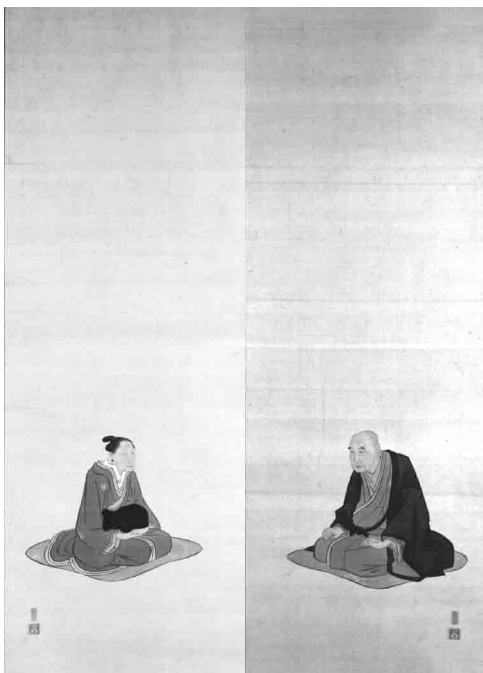
※各種割引等あり。詳しくはお問い合わせください。

○主なイベント

- ・学芸員によるギャラリートーク 一月二十八日（土）、二月十一日（土・祝）、三月四日（日）十五時〜（一時間程度）、二月四日（土）十時三〇分〜（一時間程度）、企画展入口集合（観覧券が必要）
- ・収蔵品ゆかりの地ツアー「甲府城下における大木家ゆかりの地ツアー」二月四日（土） ※詳細・受付は開催一ヶ月前から

○お問い合わせ 県立博物館

電 話 〇五五―二六一―二六三一、
FAX 〇五五―二六一―二六三二



歌川広重筆 大木喜右衛門夫妻像
天保12年(1841)頃

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

武田の杜鳥獣センター (甲府市)

鳥獣センターでは、傷ついたり、病気になった野生の鳥や獣、また自分で生活できないヒナや幼獣を主として保護し、元気になったら自然界に返すことを主な仕事として行っています。

また、鳥獣センターでは、

- ・ツバメやスズメなどの身近な鳥の保護体験教室
- ・野生鳥獣ボランティアの募集・研修
- ・野生鳥獣写真コンクールの募集・写真展示
- ・中学生、高校生等の職場体験学習

などの事業を行っています。

このように、鳥獣センターは、野生鳥獣の保護思想の普及・啓発機能を高めることを目的として活動しています。

住 所：甲府市和田町 3004 - 1

電話番号：055-252-9161

休 館 日：月曜日（7・8月を除く）

休日の翌日・12月29日～1月3日

開館時間：午前9時～午後4時30分

入 館 料：無料

駐 車 場：無料（普通車13台、バス1台）

U R L : <http://www.takedanomori.jp/>



鳥獣センター正門



保護鳥獣のエサ作り、エサやり体験の様子

(財) 信玄公宝物館 (甲州市)

県内でも一番早く、歴史博物館として開館いたしました。

武田信玄公の菩提寺 乾徳山恵林寺境内にあり、「風林火山」の孫子の旗をはじめとして、信玄公直筆の書状・古文書など武田家ゆかりの品々を数多く展示しております。

また春には、江戸時代から平成までの彩りも華やかなひな飾りやつるし飾りを、桃の花まつりとともに1月中旬から4月中旬まで開催しております。

甲斐が誇る武田信玄公の歴史を四季を通してお楽しみください。

住 所：〒404-0053

山梨県甲州市塩山小屋敷2280番地
臨済宗乾徳山恵林寺山内

電 話：0553-33-4560(代)

開館時間：9:00～17:00

(但し入館受付は16:30迄)

休 館 日：毎週木曜日(但し4月～11月は無休) 年末年始の休館日はお問合せください

観 覧 料：一般500円(20名以上 団体400円)・

小中学生100円

恵林寺共通券700円

(20名以上 団体600円)

*信玄公や展示物に関する質問等はメールで受け付けております

駐 車 場：大型バス15台、普通車100台、無料



宝物館正面



宝物館企画展



らくがき



貴重な体験
土屋 芳子

2008年度からの2年間、夫のカラチ日本人学校赴任に帯同し貴重な異文化体験をさせていただきました。イスラム圏初の女性首相ベナジル・ブット氏が暗殺されたばかりの政情不安定なパキスタン国への赴任でした。

アラビア海に面しているとはいえ、周囲には乾燥した砂漠があるため、部屋に入り込む細かい砂埃との格闘が始まりました。冬期(12~1月)以外は気温40℃の毎日。計画停電と言いながら予告なしに毎日何度も数時間。ルール無視の交通事情にも愕然としました。交差点には物乞いが溢れ、停車した車に蠅のように群がる光景を見るたびに心が重くなりました。貧困格差の現実がそこにありました。イスラム教国ならではのアザーンが鳴り響く街で、早朝からモスクに集う人々やバクライドで生け簀にされる山羊を遠巻きに見聞することができました。

宗教が生活と深く関わり、「男が外で働き、女は家を守る」という根強い性別役割分業や女性の識字率が40%であることが、女性の社会進出を阻んでいること。また、この国の新生児死亡率がどこよりも高い原因に思い至った時、発展途上国における教育の果たす役割と重要性を痛感しました。

(県立日川高等学校)

お元気ですか
平賀希和子

みなさんお元気ですか。今年もあとわずかですね。ところで私が勤務している、富士見支援学校旭分校ってご存じでしたか?よくわかば支援学校ふじかわ分校(「ふじ」と「分校」が同じだからだと思います)、長野県富士見町の学校や笛吹市の小学校(「富士見」が同じ)と間違われます。ある先生は電話で、北海道の有名な旭山動物園と聞き間違われたそうです。おもしろいですね。(シロクマがいたりして。)

さて、この旭分校には、心や体、色々な悩みを抱えた子どもたちが学んでいます。「受容、傾聴、投影…」これらの言葉は、富士見支援学校に勤務したことで実体験を伴って理解することができました。私の場合、頭では想定しているのですが、思いも寄らない子どもたちの言動(表出)に、正直落ち込んだり、イラッとしてしまったりの繰り返しです。なぜでしょうか?実は子どもの言動を通して、自分自身を見つめさせられているからだと思います。これってかなりきついことですが、なかなか味わえない経験でもあります。

では1番うれしい時は、子どもたちがそれぞれの道に向かって努力している姿を見た時です。いえ、それにも増して、自己と向き合い悩みもがく姿は、敬服に値するものがあります。そんな姿を応援するのが、旭分校なのかもしれません。ここまでお読みくださったみなさん、旭分校に勤務してみませんか。

…では、よいお年を…

(県立富士見支援学校旭分校)

★「富士山信仰遺跡調査の成果報告&講演会」を開催します★
県埋蔵文化財センター

古くからその美しい姿で、人々に畏敬の念を抱かせてきた富士山。県埋蔵文化財センターでは、平成21~23年度までの計画で「山梨県内山岳信仰遺跡分布調査」として、富士山信仰遺跡に関わる調査を行ってきました。

主な調査地点は、北口本宮富士浅間神社、富士御室浅間神社、河口浅間神社の各社有地、富士山五合目の森の中に残された山小屋跡、足和田山山中に残された蓮華寺奥の院伝承地や御坂山中の大善寺行者堂跡伝承地などです。

今回、富士山総合学術調査研究委員会と合同で調査成果の報告会を開催します。富士山信仰に関する調査に携わった学識経験者の方々の話を聞く絶好のチャンスですので、是非ご参加下さい!!

日時:平成24年3月4日(日)
開場 午後1:00~
場所:富士吉田市民会館(富士吉田市)
内容:富士山に関わる学術調査の成果報告と講演

(講演予定者)
清雲俊元氏(県文化財審議会会長)
坂詰秀一氏(立正大学名誉教授)
笹生 衛氏(國學院大学教授)

◆お問い合わせ先 県埋蔵文化財センター
TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882
URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>



吉田口登山道中ノ茶屋付近の小堂跡の調査



富士御室浅間神社内片山社土台出土の祭祀遺物

体と心を育てる「食教育」

蕪崎市立蕪崎西中学校

本校は、蕪崎市内を流れる釜無川を境として、その西側を学区とする生徒475名が通う学校です。蕪崎市は、文部科学省より平成19年度から22年度まで学校給食や食育をテーマとする事業の委託を受け、本校はその中核校として様々な取組を行ってきました。

本年度は、引き続き学校給食を中心とする食教育に取り組んでいます。

◇ランチルーム給食での食育指導

各学級ごと学期に1回、ランチルームでの会食を行い、栄養教諭による食育指導の場としています。年間指導計画



ランチルーム給食での食育指導

に基づき、1学期は水分補給の仕方について、2学期はスポーツ栄養について、生徒が自らの食生活にすぐにかける内容で指導を行いました。

◇学園祭での給食委員会の取り組み

給食委員会では、「給食や食事への関心を高め、食べ物を大切にすることを働きかける」をテーマに、学園祭に向けて取り組みました。残量調査や好きな給食メニューのアンケートを行い、結果を展示したり、日本と飢餓の国との給食を比較し、残量調査の結果とも合わせて、食べ物を大切にすることを呼びかける展示物の作成を行いました。



学園祭での展示見学の様子

花かおる学舎にうまれた

県内唯一！進学型の「新しい」総合学科高校

県立上野原高等学校

◇世紀を超えて33年 花かおる学舎

創立33周年を迎える本校は開校以来、地域の要望、時代のニーズに合わせ変革を重ねてきました。

校歌に歌われる、窓に見える「御前山」、春に若鮎おどる「鶴川」は変わることなく上野原高校を見守り続け、四季の移り変わりを伝えてくれています。校歌は校舎が建つここ八ツ沢の地に文教の礎をつくと続き、今では大学も隣接、まさに上野原市の文教の地となりました。そして、最後に「上野原花かおるわれらの母校」で締めくくられます。今、上野原高校では生徒会を中心に花いっぱい運動を行っています。

◇県内唯一の進学型総合学科高校

平成23年度より進学型総合学科高校として新たな第一歩



校長の手ほどきで花植え作業も順調

を踏み出しました。これまでの普通科・英語科・理数科の伝統と経験を継承しながら生徒ひとり一人の夢の実現をサポートできる学校になりました。現在は進学を重視した6つの進路プランを用意し生徒個々の進路希望に合わせた科目履修の実現に努力しています。

◇夢の実現をサポート

総合学科高校の特徴である「産業社会と人間」という科目では、自らの夢を語る「ドリームスピーチ」、大学へ赴き授業を体験する「高大連携」、職業人の話から将来像のヒントを得る「ワーカーズトーク」、職場の最前線を目の当たりにする「ワークトラベル」等の様々なプログラムの体験を通して夢の実現の第一歩に役立てられる内容を実施しています。



ワークトラベル（YBSのスタジオで）

学校教育を支援する実践的調査・研究を目指して

— 総合教育センター 研究開発部 —

近年はグローバル化、情報化、少子化など社会構造の急速かつ大きな変化に伴って国民の意識や価値観が多様化し、学校教育に対する要請もこれまでになく複雑で高度なものになってきています。本年度は小学校で新学習指導要領の全面实施となり、来年度以降も中学校、高等学校で順次実施されるなど、子どもたちの学習内容も変化していきます。

山梨県総合教育センターは、こうした状況を踏まえ、各学校の今日的な教育課題を把握し、その課題解決のための各種調査・研究や指導計画・指導方法の研究及び開発にも努めています。

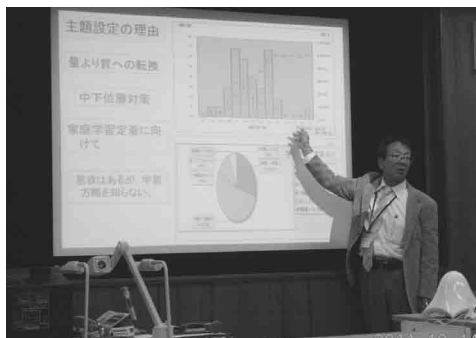
研究開発部では研修主事による具体的な実践研究を企画し、その研究成果を県内各学校や他の教育機関に普及・広報を行っています。また、本センターにおける研修事業や各学校の校内研究会への訪問支援事業等に活用して、本県の学校教育の向上に寄与するための業務を行っています。

○総合教育センターの研究について

本年度は学校教育を支援するための実践的な研究として「言語活動に重点を置いた、知識活用能力を育成する指導と評価の在り方」を研究課題に設定しました。①教科・領域②教育相談③特別支援教育④情報教育⑤教育課程実施状況調査の五つのグループを編成し、研究に取り組んでいます。各研修主事はこれまで本センターで行ってきた研究や、新学習指導要領、山梨県学校教育指導重点、学校現場のアンケートなどを踏まえ、研究主題を

設定し、研究協力校の支援を得ながら、実践的な研究（主事研究）に取り組んでいます。なお、研究成果の報告の場として平成二十四年二月二十三日（木）に研究発表大会を開催します。本年度はより充実した研究発表大会を目指して、都留文科大学の福田誠治副学長による特別講演も予定しています。多くの教育関係者の方々に御来所いただき、活発な議論を期待するとともに、教育現場での指導改善に役立つよう祈念しております。

○教育課程実施状況調査について
全国学力・学習状況調査と並んで、本センターでは県内公立小・中学校における学習指導要領に基づく教育課程の実施状況について、各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況と子どもたちの学習に対する意識を調査しています。現在、義務教育課と連携をはかりながら調査結果の分析や考察を行い、学校における学習指導の問題点を明らかにするとともに、今後の改善策を検討しています。なお、調査結果につきましては来年二月の



主事研究の所内中間発表会のようす

研究発表大会で報告し、その後、調査報告書（CD）を作成し、県内各学校や他の教育機関に配付する予定です。

○一般留學生研究について

教員の資質向上と指導力の充実を図り、県内学校教育のリーダーとなる人材の育成を目的として、本年度は二名の一般留學生が本センターで研究をしています。それぞれ「教科指導と評価」（中学校数学）と「言語活動の充実」（小学校社会）を研究テーマとして、本センターの主事による指導や県内各学校の協力のもと、現場での授業実践と検証を重ねながら研鑽に励んでいます。

○情報・資料収集と学校支援について

研究開発部では、県内外の学校と教育機関から研究紀要や学習指導案、研究文献を収集し、公開しています。本センター内ライブラリーにおいて閲覧できるほか、ホームページ上の「コンテンツデータベース」から検索すると必要な情報が得られます。合わせて、県内各学校の研究主題、本センターの研究紀要は「調査・研究」のページから御覧になれます。現在、更なる資料の充実を図るとともに、より活用しやすい方法を考え、体制を整えています。

今後とも、本センターでは、学校現場の先生方への有効な指導方法の提案や助言、研究の成果や適時な教育情報の提供に努めて参ります。

◇ 山梨県の神社について調べる ◇

レファレンスの道具箱



山梨県立図書館

神社の由緒を調べる その1 名前から調べる

武田神社や浅間神社など大きな神社は、由来や祭神などを1冊で調べることができる冊子を作っています。また、1868年に県下の神社・寺院から提出された由緒書をもとにした『甲斐国社記寺記』では、当時の主だった神社の様子を調べることができます。

『武田神社誌』（武田神社編 乙黒松音 1989）

『甲斐一之宮 浅間神社誌』（鎌田純一編 浅間神社 2005）

神社の由緒を調べる その2 地域から調べる

各市町村で作成された市町村誌の大半には、地域内の神社を紹介する項目が設けられており、小さな神社まで記述している市町村誌もあります。また地域の文化財として紹介した資料や、観光スポットとして紹介した資料も作成されています。

神社の内部（構造）を調べる

重要文化財などに指定された貴重な建造物が修理または解体される場合には、調査報告書が作られるため、詳しい構造が調べられます。また、各自治体は施設の保存のため様々な調査を行っており、内部構造がわかる調査報告書もあります。

『重要文化財窪八幡神社修理工事報告書』（重要文化財窪八幡神社修理委員会 1957）

『山梨県史 文化財編』（山梨日日新聞社 1999）

神社の伝説（民俗）を調べる

県内各地に土地の神様や神社にまつわる伝説や民話が多数残され、採録されています。また、民俗調査によって、お祭りや伝統行事など、どのように祀られてきたか調べることができます。

『甲斐の伝説』（土橋里木編著 第一法規 1975）

『山梨県の祭り・行事 山梨県祭り・行事調査報告書』（山梨県教育委員会 甲府 1999）

卍 神社の神様を調べる

諏訪神社のように全国各地で祭られている神社や神様を調べる場合は、郷土資料だけでなく、調査研究室にある資料もあわせて調べるとよくわかります。

『神道事典』（国学院大学日本文化研究所／編 弘文堂 1994）

『日本神名辞典』（神社新報社 1995）

@ インターネットで調べる @

山梨県神社庁

(<http://www.yamanashi-jinjacho.or.jp/>)

神道や日本の神話、山梨県内の神社について解説しています

※ 今回紹介した資料以外にも関連資料を所蔵しております。ご利用ください。

山梨の文化財

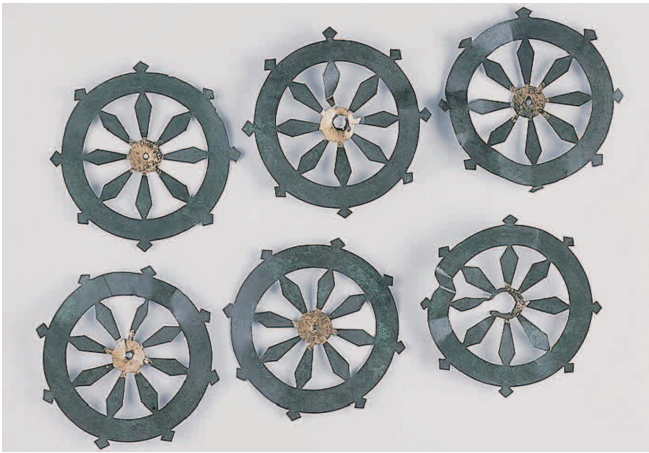
県指定有形文化財（考古資料）

甲府城跡出土遺物（山梨県立考古博物館）

（平成二十三年九月一日）

甲府城は現在のJR甲府駅から県庁周辺に築かれた山梨県で唯一の高石垣をもつ近世城郭です。甲府城が築かれたのは天正一〇年（一五八二年）の武田氏の滅亡後、甲斐国が豊臣秀吉の支配下となった約四百年前と考えられています。甲府城は一条小山と称される独立丘陵上に築かれましたが、この場所には一蓮寺（現在は甲府市太田町に移転している時宗の寺院）があつたとされています。

甲府城跡は昭和四三年（一九六八年）に県史跡に指定され、都市公園「舞鶴城公園」としても親しまれており、平成二年からの公園整備によって稻荷櫓復元や石垣改修などが行われ、現在は本丸付近で鉄門（くろがねもん）の復元工事が進められています。整備時に実施された発掘調査では甲府城や一蓮寺に関する遺物が出土し、様々な新たな知見が得られ、その一部は既に「甲府城跡出土金箔鱗瓦」



輪宝（江戸時代の地鎮具）

「甲府城跡出土飾瓦」として県有形文化財に指定されています。

今回指定されたのは瓦以外の遺物であり、石製品一七点、金属製品一点、木製品四点の合計三二点です。石製品には宝篋印塔二点、石仏十一点、石臼四点があります。金属製品には銅製の釘隠二点、柄鏡一点、鉄砲砲弾二点、輪宝六点、慶長一分金一点です。また、木製品は狭間の部材四点となります。今回指定された遺物は、甲府城の築城以前の土地利用や甲府城内の建物や日常生活や祭祀の様子を解き明かすものであり、甲府城の歴史性を示す資料として価値の高いものです。

主な行事予定

県立美術館

特別展

「モリス・ドニ

「のちの輝き、子どものいる風景」

1/10～3/4

県立博物館

企画展

「おふどうと名乗った家

— 豪商大木家の三五〇年 —

1/27～3/5

県立考古博物館

「甲州市内の出土品

「勝沼氏館跡の発掘調査」

12/10～1/29

県立文学館

■新収蔵品展

「直筆のあじわい」

2/2～3/21

表紙を飾る



上野原西中学校
3年
高林 彩香

作品タイトル

「My favorite」

私は中学3年間バレーボール部に所属していました。もう引退してしまいましたが、今でもバレーボールは大好きです。また、ピアノを弾くことも大好きです。そんな今の私に欠かせないものを自画像の中に表現しました。自分を描くということは、思っていた以上に難しく、顔の一つ一つのパーツのつくりや位置をとらえることが思うようにはいかず大変でした。完成するまでに時間がかかりましたが、納得のいく作品になったと思います。

指導者：鈴木 美穂

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html